

ねんせい ばとうきんこんさーと
2年生 馬頭琴コンサート(1/23)

馬頭琴という楽器をご存じですか？モンゴルでは「モリンホール」と言われている民族楽器で、弦の本数が二本のモンゴルを代表する弦楽器です。モンゴル語では「馬の楽器」という意味であり、楽器の棹の先端部分が馬の頭の形をしているため、日本では中国と同じ「馬頭琴」と呼ばれています。

今年も、大阪在住で、10年前に内モンゴルから来日された「春蘭」さんに来校いただき、馬頭琴の演奏を聴かせていただきました。毎年、伊賀市内では数校だけが聴かせてもらうことができますが、本校は、昨年度に引き続き、来校していただくことができました。

2年生は、国語で『スーホの白い馬』を学習します。草原で暮らす少年スーホは、生まれたばかりの白い子馬を拾って育てますが、その馬を殿様に奪われてしまいます。でも、その馬は、殿様から逃げ出してスーホのもとに帰ってきますが、矢で射抜かれた白馬はやがて死んでしまいます。悲しみの中で、スーホは、白馬の骨や皮から馬頭琴を作り、草原で奏でるといふ悲しい物語です。

コンサートでは、まず、『スーホの白い馬』の舞台となったモンゴルについて、広々とした草原やゲルという住居などの写真を見せてもらいながら、教えてもらいました。そこでは、牛や馬、羊といった家畜は、家族のような存在であることも教えてもらいました。春蘭さんから、黒いかたまりを手渡された子どもたちは、興味津々でしたが、それが、料理や暖房に使用している家畜の糞を乾燥させた物であると聞いて、子どもたちは驚いていました。ちなみに、家畜の糞を乾燥させた物からは、かすかに草の香りがしました。

その後、実際に、馬頭琴の演奏を聴かせてもらいました。曲は、広々とした草原が思い浮かんでくるような曲もあれば、スーホと同じように馬に乗って草原を駆け回っているような曲もありました。演奏に合わせて、馬に乗っているような身振りをしながら、演奏を楽しんでいる子どもたちもいました。

最後に、4人の子どもたちだけででしたが、モンゴルの衣装を着させてもらいました。子どもたちからは、「本物の王様みたい」という声も聞かれ、子どもたちは、物語と結びつけながら、演奏を楽しんでいました。



すいようしゅうかい ぜんこうしゅうかい
水曜集会(全校集会)をしました(1/24)

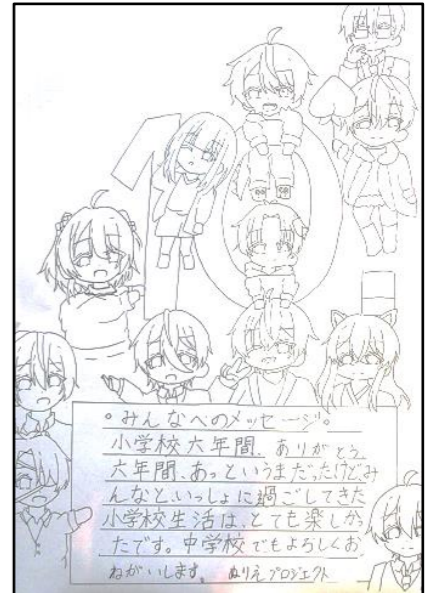
月に1回程度、全校のみんなが集う「水曜集会」を行っています。

今回の集会では、さくら会の役員さんからの月目標の発表と図書委員会の子どもたちによる絵本の読み聞かせ、また、6年生から、「残りの3ヶ月、1～5年生と楽しく過ごすプロジェクト」の一つとして、今回は、「あそび・ぬり絵プロジェクト」の子どもたちが企画した「トーンジャンケン」を行いました。

読み聞かせでは、スクリーンに絵を映し出ししながら、図書委員会の子どもが、交代をしながら読み聞かせをしてくださいました。図書委員会の子どもたちの読み方が大変聞きやすかったので、子どもたちは、じっとスライドを見ながら、絵本の世界を楽しんでいました。

「トーンジャンケン」は、チーム対抗で、1人ずつが前に進んで、出会った子とじゃんけんをして、勝ったら前に進み、負けたら次の子と交代をしながら、相手の陣地まで行くことができれば勝ちという遊びです。今回は、運動会でも同じチームであった縦割り班で行ったこともあり、6年生がリードしながら、楽しんでいる姿が見られました。最後に、プロジェクトの子から、全員が右のようなぬり絵をもらいました。

6年生が、次はどんなプロジェクトを企画してくれるのか楽しみにしています。



い が し こ こ そ だ し え ん か ん ち ょ う さ
伊賀市子ども・子育て支援に関する調査 ~伊賀市役所子ども未来課~

伊賀市では、令和7年度から令和11年度までを期間とする「伊賀市子ども・子育て支援事業」の計画の策定に向けて、小学校にお子さんが在籍する家庭を対象にアンケート調査を行うことになりました。

本日、全家庭に、アンケートが入った「アンケート回収用封筒」を配布しました。今回は、小学校にきょうだい複数人いるご家庭については、「下のお子さんについて」お答えいただくアンケートですので、下のお子さんに配布をさせていただきましたので、ご確認ください。

これからの伊賀市の子ども子育て支援において重要な資料となりますので、全家庭のみなさんにご提出いただきたいと思います。ご負担をおかけしますが、ご回答いただいたアンケート用紙を封筒に入れ、2月6日(火)までに、お子さんに持たせてください。ご協力よろしくお願いします。